

## COVID-19 感染既往患者の待機手術再開時期に関する提言

公益社団法人 日本麻酔科学会  
理事長 山蔭道明  
COVID-19 対策特別委員会

2021年3月18日に英国 Association of Anaesthetists, Centre for Perioperative Care, Federation of Surgical Specialty Association, Royal College of Anaesthetists, Royal College of Surgeons of England から COVID-19 感染既往患者の待機手術再開時期に関する提言が発表されました<sup>1)</sup>。

本提言の要旨は以下の通りです。

1) COVID-19 感染後の手術時期は下記の項目を総合的に考慮し判断することを推奨する。

- COVID-19 感染時の重症度
- COVID-19 関連の症状が持続しているかどうか
- COVID-19 感染前および感染後の併存疾患と重症度、全身状態
- 手術適応となっている疾患の進行、緊急性
- 手術の複雑さ、侵襲度

2) 院内感染予防の観点から、COVID-19 感染時の重症度が軽症～中等症患者では発症後 10 日間、重症感染患者では 15～20 日間は手術を行わないことを推奨する。

3) 待機可能な手術は COVID-19 感染診断から 7 週目以降に予定することを推奨する。その時点で COVID-19 関連症状が継続している場合には、手術の至適時期と手術リスクについて慎重に考慮する。

本提言の主要なエビデンスは COVIDSurg Collaborative の国際共同研究の結果に基づいています<sup>2)</sup>。この国際共同研究は、全世界で 1,667 病院 141,582 名の手術患者の転帰について調査した前向きコホート研究です。本調査の結果より COVID-19 感染後 7 週未満の手術患者は、非感染の手術患者に比して術後死亡リスクが高くなることが示されました。さらに、7 週以降でも COVID-19 感染関連症状が残存している患者では、術後死亡リスクが高くなることも判明しております。なお、この研究には国内 48 施設から約 2500 症例が登録され、多くの日本麻酔科学会会員が COVID-19 パンデミックにおける安全な手術・麻酔に関するエビデンスの構築に貢献しています。

### 参考文献

1) <https://associationofanaesthetists-publications.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/anae.15464>

2) COVIDSurg Collaborative, GlobalSurg Collaborative. Timing of surgery following SARS-CoV-2 infection: an international prospective cohort study. *Anaesthesia* 2021. Epub 9 March.